

18 (交) 051

2018 年 10 月 18 日

学校法人 青山学院
理事長 堀田 宣彌 殿

青山学院大学教職員組合
中央執行委員長 LENZ, K. F.

青山学院教職員組合
中央委員長 佐藤隆一

2019 年夏季期末勤勉手当についての意見と質問

10 月 1 日に行われた団体交渉において、組合が春季要求で要求していた期末勤勉手当・年度末手当についてご回答がありました。2018 年冬季期末勤勉手当・年度末手当については、組合の要求どおりのご回答をいただき感謝しております。

しかしながら、2019 年夏季期末勤勉手当についてはご回答いただけませんでした。従来、組合と法人とで 11 月頃に行っている一時金交渉では、冬季期末勤勉手当・年度末手当、翌年の夏季期末勤勉手当をセットで要求し、年間一時金として支給日も含めご回答をいただいております。今回も例年の一時金交渉において慣例化している交渉方式を踏襲し、2018 年冬季期末勤勉手当・年度末手当、2019 年夏季期末勤勉手当をセットで要求いたしました。2019 年夏季期末勤勉手当についてご回答いただけないとすれば、従来の回答とは異なるため不必要に組合員の不安をあおることにつながりかねません。

そこで、夏季分についてはいつ頃ご回答いただけるのか、現時点ではお答えいただけないご事情が何かおありなのか、という点について団体交渉時に質問させていただきました。

しかし、いつ頃回答をいただけるのかという質問に対しては、「今回は回答しない」とだけ述べられました。これは回答しないということが回答であると受け止められるもので、なぜ回答をいただけないのかという質問をしたところ、「前年度そうであったので、今回も踏襲する」とのことでした。

「前年度そうであったので」というご回答でしたが、前年度に関しては、一時金訴訟の和解条項に基づき、組合と法人とで取り交わした「一時金支払いに関する協定書(17. 4. 20 付)」によって、2018 年夏季期末勤勉手当までは金額が決まっていた。したがって、2017 年の年間一時金交渉時に、2018 年夏季期末勤勉手当のご回答がないとしても特に異論はあ

りませんでしたし、夏季の支給日だけが未回答という状況であったと組合として理解しております。ただし、夏季の支給日について昨年度の交渉時に回答がなかった点についても納得しているわけではなく、なし崩しに交渉形式を変更される理由にはなりませんので、納得できるご説明をいただきたいと思います。

さらに、2018 年冬季期末勤勉手当・年度末手当以降は、当該協定書によって金額が決まっていない中での交渉となっているため、組合員は今回の回答を注視しています。2019 年夏季期末勤勉手当のご回答がない理由が「前年度そうであったので」ということでは、不安をあおる結果になりかねません。

そこで、2019 年夏季期末勤勉手当についてお答えいただけるのであれば感謝いたしますし、また、「前年度そうであったので」というのであれば、夏季期末勤勉手当についても要求金額どおりの回答を期待しております。もしご回答いただけないのであれば、なぜご回答いただけないのか、いつ頃ご回答いただけるものなのか、改めて質問させていただきます。また、交渉形式を変えるというご提案なのであれば、協議の上で合意が必要と考えます。正式に組合に対して提案された段階で、両組合で議論させていただきます。

本件、文書にてご回答ください。10 月 26 日頃を締め切りとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

以上